

取扱説明書

工事説明付き

ワイヤレスパワードスピーカーシステム

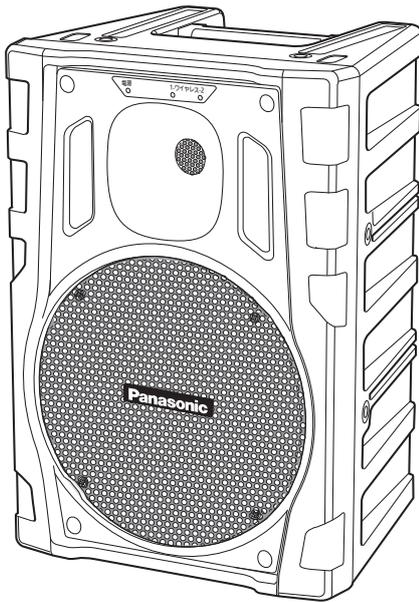
品番 **WS-X77**

はじめに

操作

設置・接続

その他



本機は屋内専用です。
屋外では使用しないでください。

もくじ

はじめに	2
商品概要	2
付属品をご確認ください	2
免責について	2
安全上のご注意	3
取り扱い上のお願い	6
使用上のお願い	6
工事上のお願い	7
各部の名前	8
前面	8
後面	9
操作のしかた	10
有線マイクを使って拡声する	10
ワイヤレスマイクを使って拡声する	11
周波数を設定する	12
接続のしかた	13
CDやMDなどを接続する	13
本機の出力端子に他の機器を接続する	14
設置のしかた	15
スピーカースタンド(別売品)への 取り付けかた	15
スタッキングのしかた	15
取付金具(現地製作)の取り付けかた	16
故障かな!?	17
仕様	17
保証とアフターサービス	18

保証書別添付

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上のご注意」(3~5ページ)を必ずお読みください。
- 保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

はじめに

商品概要

本機はアンプ内蔵のパワースピーカーで、PLLダイバシティワイヤレス受信機（PLL：Phase Locked Loop）およびアンテナが2波分内蔵されています。

- 60 Wアンプを内蔵しています。
- 低音用：20 cmコーン型、高音用：2.5 cmドーム型の2ウェイバスレフ型で、広帯域、高明瞭度のスピーカーシステムです。
- マイク入力やライン入力をミキシングして入力できるなど多彩なミキシング機能を有し、幅広い用途で使用できます。
- 低域の重なりを抑さえるローカットスイッチを内蔵しています。本機を複数台ご使用の際の低域の重なりが抑えられて明瞭度が向上します。
- 800 MHz 帯 PLL ワイヤレスマイク（別売品）を組み合わせ使用可能です。ワイヤレスマイクと組み合わせ使用することにより、プレゼンテーション用ワイヤレスシステムとして使用できます。
- 800 MHz 他のワイヤレス機器と共用可能です。
ワイヤレスパワースピーカーシステムは、受信周波数のグループ切換スイッチおよびチャンネル切換スイッチがあります。例えば、ワイヤレスパワースピーカーシステムを近接した会場で複数台使用する場合、機器ごとにグループまたはチャンネルを切り換えることにより同時に使用することができます。
他のワイヤレス機器と異なるグループまたはチャンネルに設定することによって、他のワイヤレス機器と共用できます（ただし、同一空間では最大6波までです）。
- ダイバシティ内蔵
受信アンテナとしてダイバシティ方式のアンテナを内蔵しており、音切れの少ないクリアな音声を実現できます。

ダイバシティ方式とは

受信感度の良いアンテナ（ $\alpha-\beta$ ）を自動的に選択し、電波を受信する方式。受信不良による音切れを低減できる効果があります。

付属品をご確認ください

電源コード	1本	M8 用平座金	2個
防塵カバー	1枚	チャンネル切換用ドライバー	1本
M8 アイボルト	2個	取扱説明書（本書）.....	1冊
M8 用ばね座金	2個	保証書	1式

免責について

弊社はいかなる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。

- ① 本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
- ② お客様の誤使用や不注意による障害または本商品の破損など不便・損害・被害
- ③ お客様による本商品の分解、修理または改造が行われた場合、それに起因するかどうかにかかわらず、発生した一切の故障または不具合
- ④ 本商品の故障・不具合を含む何らかの理由または原因により、拡声ができないことなどで被る不便・損害・被害
- ⑤ 第三者の機器などと組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害
- ⑥ 本商品の不良・不具合以外の事由（取付工事の不備、建屋側取付面の不良などを含む）による落下などによる不便・損害・被害

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



警告

「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。



注意

「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。(次は図記号の例です)



してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。



警告



工事は販売店に依頼する

工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因になります。

- 必ず販売店に依頼してください。

異常があるときは、すぐ使用をやめる

煙が出る、臭いがするなど、そのまま使用すると火災の原因になります。

- ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

電源プラグのほこり等は定期的にとる

プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

- 傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使用しないでください。

電源コードは、必ずプラグ本体を持って抜く

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

電源コードを熱器具に近づけない

コードの被膜が溶けて、火災や感電の原因になります。

設置・配線は電源を切ってから行う

感電の原因になります。

定期的に点検する

金具やねじがさびると、取付部が劣化し、落下など、事故の原因になります。

- 点検は、販売店に依頼してください。

落下防止対策を施す

落下によるけがの原因になります。

- 落下防止ワイヤーを必ず取り付けてください。

警告



禁止

異物を入れない

水や金属が内部にはいると、火災や感電の原因になります。

- ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

油の付着しやすい場所に設置しない

取付部が劣化して、落下などの事故の原因になります。

電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない（傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたりしない）

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

- コードやプラグの修理は販売店にご相談ください。

コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流100 V以外での使用はしない

たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

指定以外の端子に電源（AC100 V）を接続しない

ショートして火災や感電の原因になります。

幼児の手の届くところに置かない

チャンネル切換用ドライバーを飲み込んだり、防塵カバーを頭からかぶったりすると、死亡や重傷の原因になります。



分解禁止

分解しない、改造しない

火災や感電の原因になります。

- 修理や点検は、販売店にご連絡ください。



水ぬれ禁止

機器の上に水などの入った容器を置かない

水などが中に入った場合、火災や感電の原因になります。

- ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。



ぬれ手禁止

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない

感電の原因になります。

注意



コネクターの抜き差しは電源を切ってから行う
クリック音でスピーカーが破損する恐れがあります。

持ち運ぶときはコード類をすべて抜く

コードに足をかけたりして、けがの原因になります。また、コードが傷つき火災や感電、故障の原因になります。

ねじや固定機構はしっかりと締め付ける

締め付けが緩むと落下などでけがの原因になります。

人がぶつからない高さに取り付ける

けがの原因になります。

スピーカーの近くに人がいないことを確認する

突然大きな音を出すと、けがや事故の原因になります。また、耳の近くで過大な音を出すと難聴の原因になります。



禁止

湿気やほこりの多い場所に設置しない

火災や感電、故障の原因になります。

屋内用を屋外に設置しない

屋内用機器を屋外に設置すると、雨などで取り付け部が劣化し、落下など事故の原因になります。

ケーブルを傷つけない

重い物を載せたり、はさんだりすると、ケーブルが傷つき、火災や感電の原因になります。

金属のエッジで手をこすらない

強くこすると、けがの原因になります。

ぶら下がらない

けがの原因になります。

踏み台や腰掛けにしない

けがの原因になります。

落とさない

けがの原因になります。

● 落下や転倒防止対策を施してください。

取り扱い上のお願い

「安全上のご注意」に記載されている内容とともに、以下の事項をお守りください。

使用上のお願い

使用上の注意事項

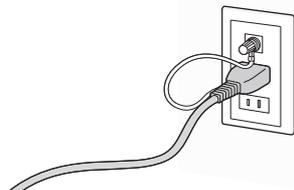
- 取付金具を製作する場合は、十分な強度を確保してください。
- 設置作業は、設置後の安全に関わる重要な作業です。設置中および設置後の事故を防ぐため、工事は販売店や専門の工事店に依頼してください。
- 安全のため、十分な落下防止対策を施し、必ず定期的に保守点検を行ってください。点検は、販売店に依頼してください。
- 使用しない場合は放置せず、必ず撤去してください。

電源コードについて

付属の電源コードは本機専用です。他の機器には使用しないでください。また、他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。

アース（接地）について

ご使用前に、アースが正しく確実に取り付けられているかをご確認ください。アース端子付きコンセントを使用される場合は、接地抵抗値（100 Ω以下）をご確認ください。



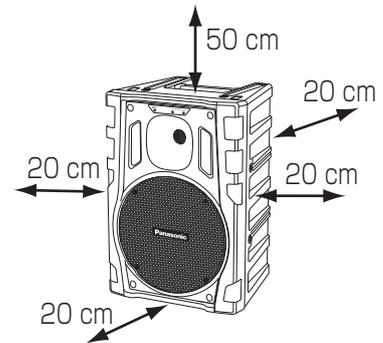
電源について

アース接続は、必ず電源プラグを主電源につなぐ前に行ってください。また、アース接続をはずす場合は、必ず電源プラグを主電源から切り離してから行ってください。

本機を使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く

本機は電源スイッチが「切」で電源表示LED が消えていても、電源から遮断されているとは限りません。電源から遮断するときは、本機の電源プラグを抜くか、本線を接続している分電盤のブレーカーを切ってください。また、本機を設置するときは、電源コンセントやブレーカーへ容易に手が届く場所に設置してください。

本機を使用する際は本機の上面部は50 cm、前面部、後面部、側面部はそれぞれ20 cm以内に物を置かない



ケーブルの抜き差しは、本機の電源を切ってから行う電源を入れたまま、ケーブルの抜き差しを行うと故障の原因となります。

本機は話す人の前に置く

後方に置くと、スピーカーの音がマイクに入りハウリングを起こす場合があります。

ワイヤレスマイク1を使用するときは、マイク1入力端子に有線マイクを接続しない

マイク1 入力端子にマイクを接続すると、ワイヤレスマイクを使用できなくなります（有線マイクが優先されます）。

ワイヤレスマイクを使用するときは、本機をワイヤレスマイクから直視できる位置に設置する

アンテナ付近に障害物があると、到達距離が短くなる場合があります。

雑音源の近くで使用しない

雑音源の近く（同じ周波数の電波または高周波を発生する機器の近く）で使用すると、雑音が入ることがあります。また、送信所の送信アンテナ直下で使用すると、電波を受信しにくくなる場合があります。

XH帯の送信機の近くでは使用しない

XH帯（783.625 MHz ~ 787.875 MHz）の送信機の近くで本機を使用しないでください。混信するおそれがあります。

ワイヤレスマイクは本機から30 m以内の距離で使用する

ワイヤレスチューナーの到達距離は30 m以内です。

防塵カバーをしたままで電源を入れない

温度が上がり、火災や故障の原因となります。

スピーカースタンドの使用について

- けがや器物破損の原因になりますので、以下の内容を必ずお守りください。
 - ・ 移動や高さの調整を行うときは、本機をスピーカースタンドから外してください。
 - ・ 転倒しやすい場所や足を引っ掛けやすい場所などには設置しないでください。
 - ・ 半径2 m以内に人を近づけないようにしてください。
 - ・ スピーカースタンドの脚に砂袋などのおもりを付け、転倒防止策を施してください。
 - ・ ケーブル類を足に引っ掛けないように処理してください。

工事上のお願い

設置工事は電気設備技術基準に従って実施してください。

工事上の安全注意事項

- 本機を取り付けるときは、以下の事項をよくお読みのうえ事故が発生しないように注意してください。
 - ・ ヘルメット、安全靴、安全帯などの安全具を必ず着用してください。
 - ・ 一人作業は禁止です。
 - ・ 高所作業車操作、足場組み立てについては、必ず有資格者が作業してください。
 - ・ 作業は、周囲に人がいないことを確認してから行ってください。
 - ・ 落下、転落など安全対策を実施してください。
 - ・ 本機を接続する際には、接続されるアンプなどの機器の電源を切ってから作業してください。感電の原因になります。
 - ・ 作業が安全・確実に行えるよう、その他安全管理の徹底を行ってください。

設置について

- 本機は屋内用です。屋外での使用はできません。また以下のような場所での設置および使用はできません。
 - ・ 雨や水が直接かかる場所（軒下なども含む）
 - ・ プールなど、薬剤を使用する場所
 - ・ 工場や厨房などの蒸気や油分の多い場所、および可燃性雰囲気中などの特殊環境の場所
 - ・ 海上や海岸通り、および腐食性ガスが発生する場所
 - ・ 車輻や船舶などの振動の多い場所（本機は車載用ではありません）
 - ・ 体育館などのスポーツ施設で使用する場合などで、ボールなどが直接ぶつかる場所
 - ・ 使用温度範囲（-10℃～+50℃）を超える場所
- スピーカーを大出力で鳴らすと、床や天井などの構造によっては振動して音質を損ねる場合があります。取り付けによる共振異常音がないよう補強してください。
- 取付金具による共振や異常音が発生しないように十分にご注意ください。
- 変形・変色を防止するため、直射日光のあたる所、冷暖房器の近くなどを避けて設置してください。

お手入れのしかた

- お手入れは本機の電源を切り、乾いた柔らかい布でふいてください。ベンジン・シンナーなど揮発性のものをかけたり、使用したりしないでください。化学ぞうきんを使用の際は、その注意書きに従ってください。



警告

- 本装置を住宅環境で使用すると無線障害を引き起こす可能性があります。

設置面について

- 取付金具を取り付ける壁や天井などの部分は、しっかりした場所に取り付けてください。
- 石こうボードや木部は比較的強度が弱いので、取り付けないでください。やむを得ず取り付けの場合は十分な補強（アンカーの引抜強度が確保できる強度）を施してください。

使用するねじやボルトについて

- 取付金具に本機を取り付ける際、現地調達するアンカーやボルトは、必ず規格品を使用してください。
- 木ねじは使用しないでください。

ねじやボルトの締め付けについて

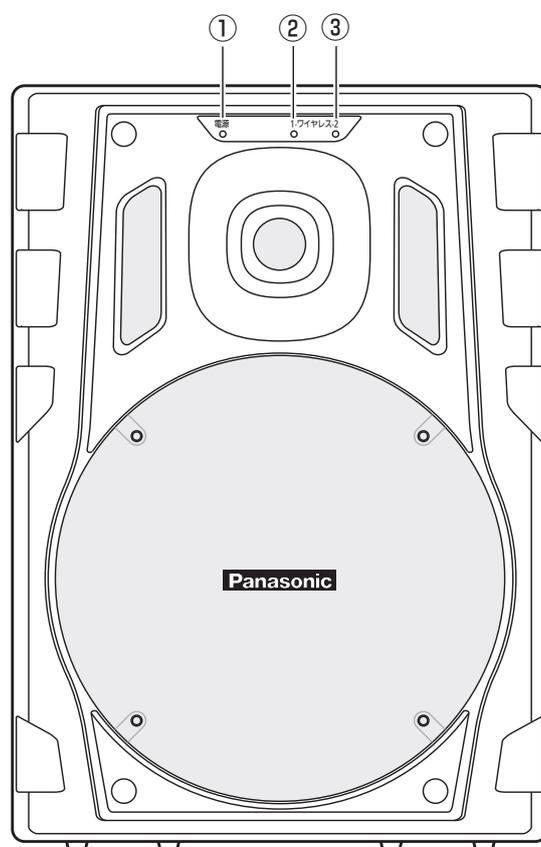
- ねじやボルトは過度なトルクで締めると、ねじ山が破損し落下の原因になります。また、弱いトルクで締めるとねじの緩みの原因になります。
- インパクトドライバーや電動ドライバーは、ねじやボルトの破損の原因になりますので、使用しないでください。
- ねじやボルトはまっすぐ締めてください。締めたあとは、目視にて、がたつきがなく、しっかりと締められていることを確認してください。

落下防止ワイヤーについて

- 落下防止ワイヤーは、万が一、取付金具が外れた場合でも、本機が人に当たらないような位置に取り付けてください。

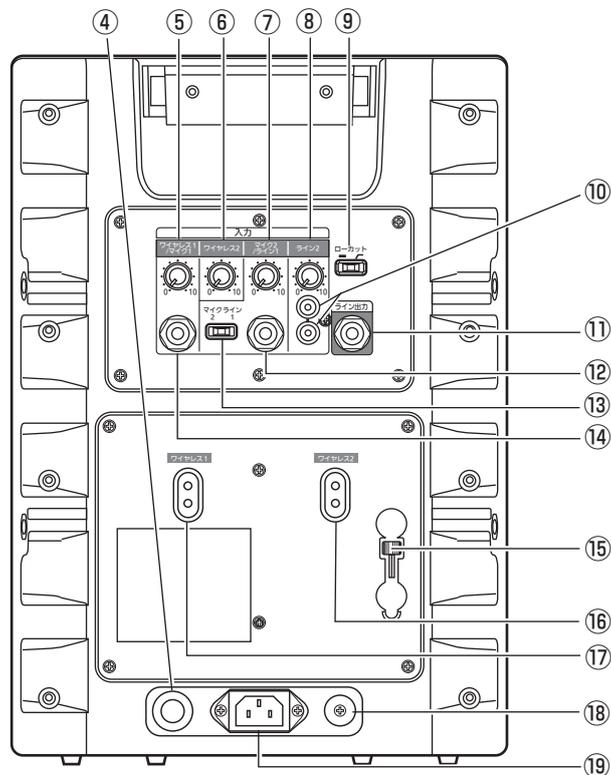
各部の名前

前面



- ①電源表示LED
電源スイッチが「入」のとき点灯します。
- ②ワイヤレス1 受信表示LED
ワイヤレスマイク1 の電波を受信しているとき点灯します。
- ③ワイヤレス2 受信表示LED
ワイヤレスマイク2 の電波を受信しているとき点灯します。

後面



④ 電源スイッチ

押して電源を「入/切」します。

⑤ マイク1/ワイヤレス1音量調節つまみ

マイク1に有線マイクを接続している時はマイク1の音量調節を、接続していないときはワイヤレスマイク1の音量調節をします。

⑥ ワイヤレス2音量調節つまみ

⑦ マイク2/ライン1音量調節つまみ

⑧ ライン2音量調節つまみ

⑨ ローカットスイッチ

本機を複数台ご使用の場合に、低域が重なって明瞭度が損なわれるときは、ローカットスイッチ（）を側にしてご使用ください。低域の重なりが抑えられて明瞭度が向上します。

⑩ ライン2入力端子 (-12 dBV, 10 kΩ, 不平衡)

L・R信号を内部でミックスします。

⑪ ライン出力端子 (0 dBV, 100 Ω, 不平衡)

すべての入力のミックス出力です。

⑫ マイク2/ライン1入力端子 (-12 dBV, 10 kΩ, 平衡)

マイク2：-55 dBV、600 Ω、電子バランス、
ライン1：-12 dBV、100 Ω、電子バランス

入力感度は、マイク2/ライン1入力切換スイッチ⑬で切り換えます。

⑬ マイク2/ライン1入力切換スイッチ

⑭ マイク1入力端子 (-55 dBV, 10 kΩ, 不平衡)

フォンジャックです。有線マイクを接続します。

⑮ チャンネル切換用ドライバー取付用クランプ

付属のチャンネル切換用のドライバーを取り付けるときに使用します。ドライバーの先端を下向きにしてクランプに差し込んでください。

⑯ ワイヤレス2グループ/チャンネル設定スイッチ

ワイヤレスマイク2を使用するとき周波数のグループとチャンネルを設定します。

⑰ ワイヤレス1グループ/チャンネル設定スイッチ

ワイヤレスマイク1を使用するとき周波数のグループとチャンネルを設定します。

⑱ Signal GND 端子

⑲ ACインレット (AC100 V 50 Hz/60 Hz)

電源コード（付属品）を接続します。

操作のしかた

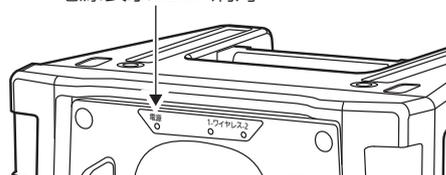
有線マイクを使って拡声する

マイク1またはマイク2が使えます。

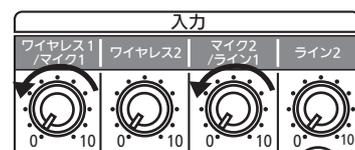
1 電源が「切」になっていることを確認する。

電源表示LEDが消灯していることを確認します。

電源表示LED 消灯



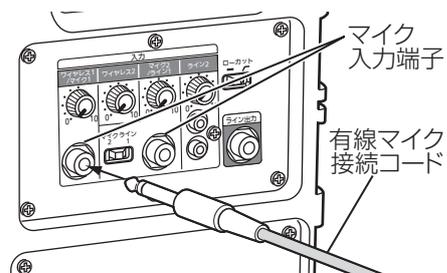
2 マイク音量調節つまみを最小にする。



3 マイクを接続する。

本機後面のマイク入力端子に有線マイクを接続します。

マイク2を使うときは、マイク2/ライン1入力切換スイッチを「マイク2」側にします。

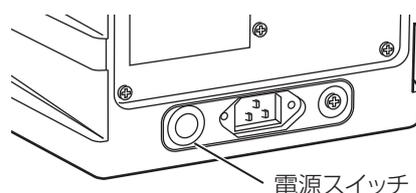


メモ

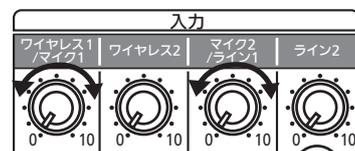
- マイク1にマイクを接続すると、ワイヤレスマイク1は使用できません。

4 電源を「入」にする。

電源表示LED が点灯します。



5 音量を調節し、マイクに向かって話す。



メモ

- マイクを接続する前に必ず本機の電源を「切」にしてください。電源が入ったままマイクを接続すると、接続するときに音が雑音となって聞こえてしまいます。

<ライン機器を接続している場合>

マイクとワイヤレスマイク2の音をミックスして拡声します。

<マイクのスイッチを「入/切」するときには>

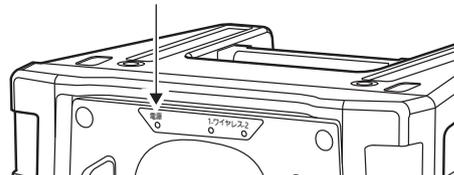
マイク音量調節つまみを最小にしてからマイクのスイッチを操作してください。

ワイヤレスマイクを使って拡声する

1 電源が「切」になっていることを確認する。

電源表示LEDが消灯していることを確認します。

電源表示LED 消灯

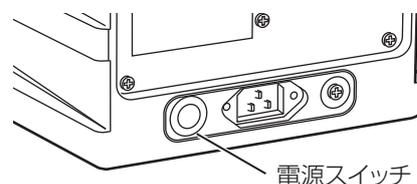


2 ワイヤレスチューナーの受信周波数をワイヤレスマイクと同じに設定する。

設定のしかたは次ページの「周波数を設定する」をお読みください。

3 電源を「入」にする。

電源表示LEDが点灯します。

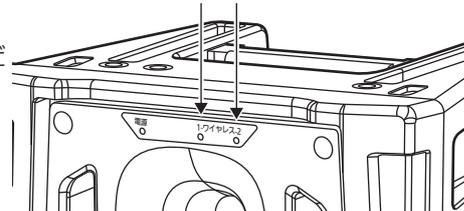


電源スイッチ

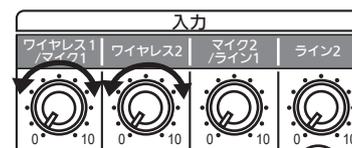
4 ワイヤレスマイクのスイッチを「入」にする。

ワイヤレス信号を受信すると、ワイヤレス受信表示LEDが点灯します。ワイヤレスマイクの操作の詳細はワイヤレスマイクの取扱説明書をお読みください。

ワイヤレス受信表示LED 点灯



5 音量を調節し、マイクに向かって話す。



<ライン機器を接続している場合>

ワイヤレスマイクの音とミックスして音が大きくなります。

<マイクのスイッチを「入/切」するときには>

マイク音量調節つまみを最小にしてからマイクのスイッチを操作してください。

<有線マイクを使用しているとき>

マイク1入力端子に有線マイクを接続していると、ワイヤレスマイク1は使用できなくなります（有線マイクが優先されます）。ワイヤレスマイクを使用したいときは、有線マイクを外してください。ワイヤレスマイク2は、有線マイクの有無に関係なく使用できます。

操作のしかた

周波数を設定する

ワイヤレスマイクを使用する場合、受信周波数の設定が必要です。
次の手順にたがって、グループ/チャンネル設定スイッチでワイヤレス1、2の周波数を設定してください。

メモ

- グループおよびチャンネル設定は、スイッチのクリックをご確認ください。

1 付属のドライバーで本機後面にあるグループ設定スイッチの矢印（↑）をワイヤレスマイクのグループと同じ数字に合わせる。

2 同じく、付属のドライバーで本機後面にあるチャンネル設定スイッチの矢印（↑）をワイヤレスマイクのチャンネルと同じ数字に合わせる。



受信周波数表（単位：MHz）

チャンネル グループ	1	2	3	4	5	6	7
1	806.125	806.375	807.125	807.750	809.000	809.500	
2	806.250	806.500	807.000	807.875	808.500	808.875	
3	806.625	806.875	807.375	808.250	808.625	809.250	
4	806.750	807.500	808.000	809.125	809.375	809.750	
5	807.625	808.125	808.375	808.750	809.625		
6	807.250						
7	806.125	806.375	806.875	807.500	808.500	809.375	809.750

メモ

- 受信周波数表にないグループやチャンネルに設定することはできません。受信できないと、ワイヤレス受信表示LEDが点滅表示します。
- 同時に使用できるワイヤレスマイクは同一グループ内で6波（本機3台）までです。
- 2つのチューナーユニットのグループ・チャンネルは、同じグループ・チャンネルにしないでください。同じにすると、混信・ビートの原因となります。
- B型ラムサマイクと本機（B型パナソニック）は、トーン周波数が異なるため共用できません。
- 同一エリア内で、ラムサのAXH帯の送信機と混用はできません。混信などの原因となります。

<同じエリアで同時に本機を複数台使用する場合>

グループはすべて同じ数字を設定し、チャンネルは異なる数字を設定してください。
工場出荷時は下記のように設定してあります。

- ワイヤレス1……グループ：1、チャンネル：1
- ワイヤレス2……グループ：1、チャンネル：2

接続のしかた

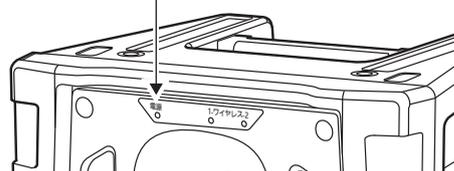
CDやMDなどを接続する

本機後面のライン2入力端子にCDやMDなどのライン機器を接続して拡声できます。

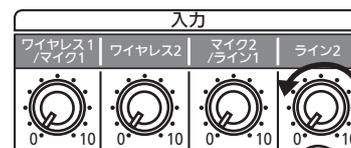
1 本機とCD、MDなどのライン機器の電源が「切」になっていることを確認する。

電源表示LEDが消灯していることを確認します。

電源表示LED 消灯

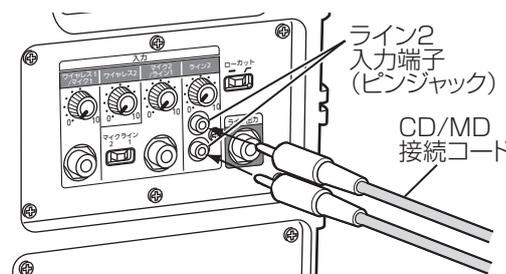


2 ライン2音量調節つまみを最小にする。



3 CDやMDなどのライン機器を接続する。

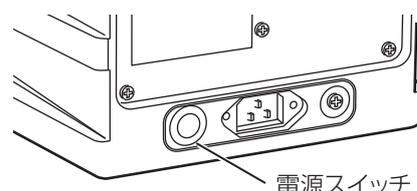
本機後面のライン2入力端子（ピンジャック）に接続します。
L・Rミックスです。



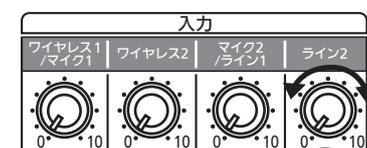
4 CDやMDなどのライン機器の電源を「入」にする。

5 本機の電源を「入」にする。

電源表示LEDが点灯します。

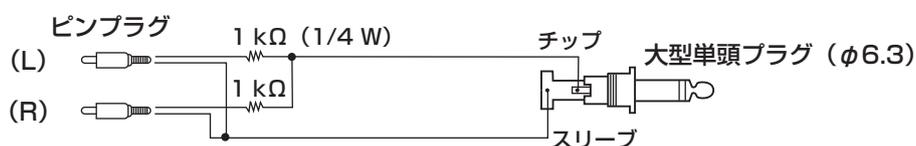


6 音量を調節し、CDやMDを再生する。



メモ

- L・R信号は内部でミックスされます。
- ライン1（フォンジャック）にCD、MDなどのステレオライン機器を接続する場合は、下記のケーブルが別途必要です（現地製作）。



接続のしかた

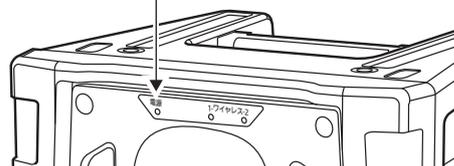
本機出力端子に他の機器を接続する

本機のライン出力端子に他の機器（入力端子）を接続して、本機に入力された信号を他の機器へ出力することができます。

1 本機の電源が「切」になっていることを確認する。

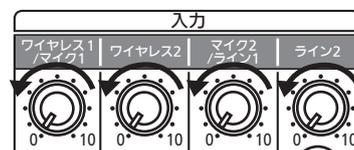
電源表示LED が消灯していることを確認します。

電源表示LED 消灯



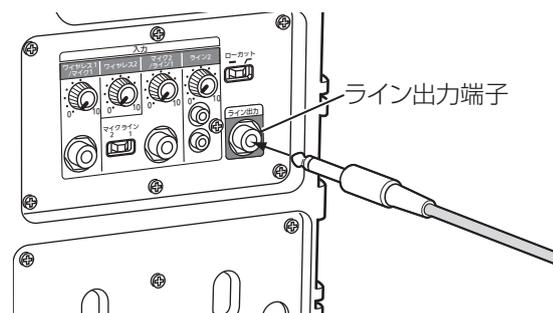
2 本機に接続する他の機器の電源も「切」になっていることを確認する。

3 本機の全ての音量調節つまみを最小にする。合わせて、接続する機器の音量も最小にする。



4 機器を接続する。

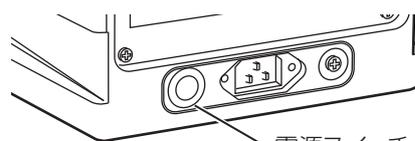
本機後面のライン出力端子と他の機器の入力端子を接続します。



ライン出力端子

5 本機の電源を「入」にする。

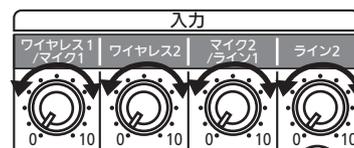
電源表示LED が点灯します。



電源スイッチ

6 本機に接続した機器の電源を「入」にする。

7 本機のすべての音量調節つまみを調節する。



8 本機に接続されている機器の音量を調節する。

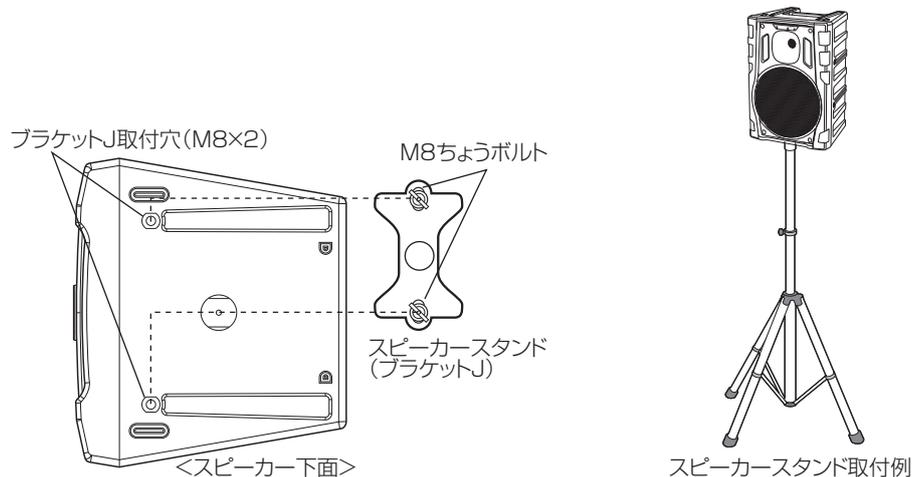
メモ

- 本機のライン音量調節つまみ、マイク音量調節つまみ・ワイヤレス音量調節つまみが最小になっていると、ライン出力端子に音声が出力されません。

設置のしかた

スピーカースタンド（別売品）への取り付けかた

スピーカースタンドへ本機を取り付ける場合は、別売りのスピーカースタンドを使用してください。また、使用するスピーカースタンドの取扱説明書をよくお読みのうえ、その指示にしたがってください。
(推奨品：SP20（星野楽器株式会社製）)



重要

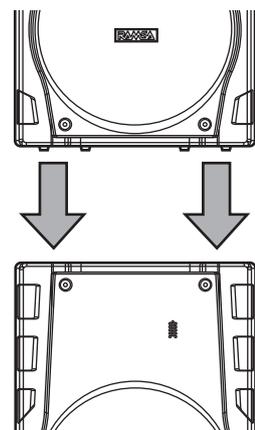
- スピーカースタンドを倒すと、けがや器物破壊の原因になりますので、以下の内容を必ずお守りください。
 - ・移動や高さの調整を行うときは、スピーカーをスタンドから外してください。
 - ・転倒しやすい場所や足を引っ掛けやすい場所などには設置しないでください。
 - ・半径2 m以内に人を近づけないようにしてください。
 - ・スピーカースタンドの脚に砂袋などのおもりを付け、転倒防止策を施してください。
 - ・ケーブル類を足に引っ掛けないように処理してください。

スタッキングのしかた

スタッキングするときは、スタッキング凸部とスタッキング凹部を組み合わせる積み重ねてください。

重要

- 転倒しやすい場所ではスタッキングしないでください。
- スタッキングは2段までにしてください。また、万が一、転倒した場合でも人にぶつからないようにスペースを確保してください。
- ケーブル類を足に引っ掛けないように処理してください。



取付金具（現地製作）の取り付けかた

- 現地で製作した取付金具を右図A（ねじ穴）に取り付ける場合は、次に示すねじ類を必要な個数分、別途準備してください。

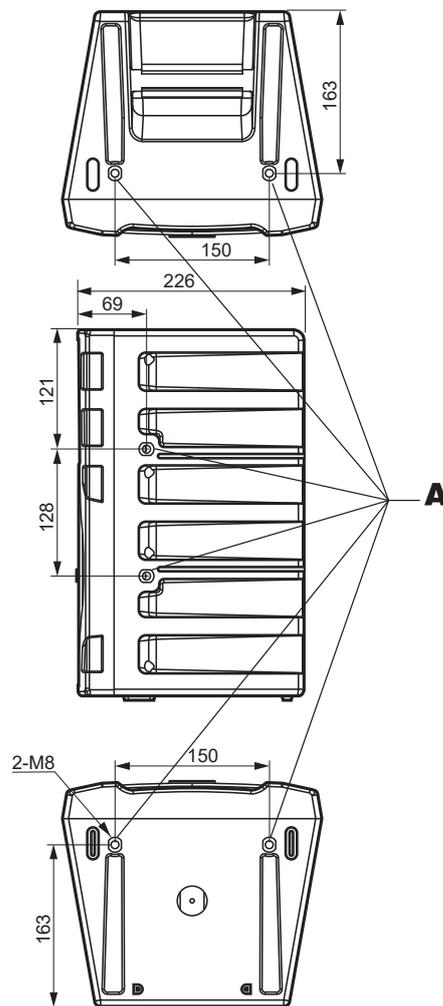
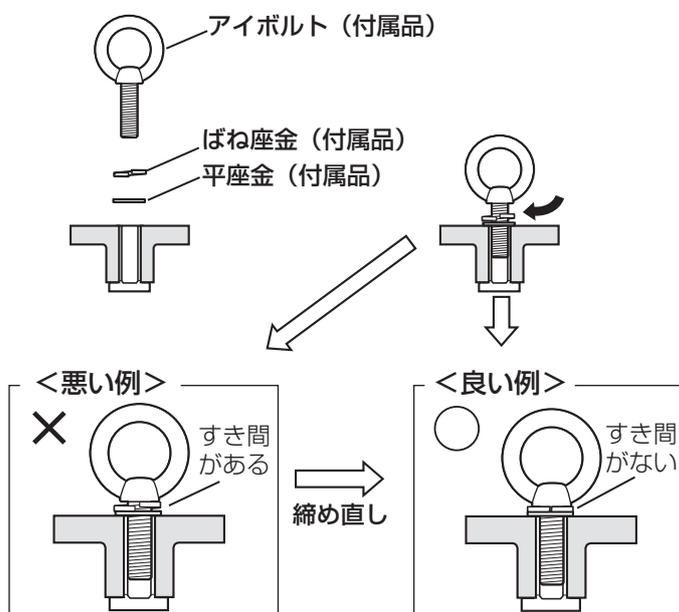
- ・ 平座金（M8用）
- ・ ばね座金（M8用）
- ・ 取付ねじ（M8用）

ねじの長さは、下記の範囲でご使用ください。

(10+4*+取付金具の板厚) mmより長く、
(18+4*+取付金具の板厚) mmより短いこと。

※：座金類の厚さ

- 取り付ける天井や壁が、本機の取り付けに十分な強度があることを確認してください。
- スピーカーを天井や壁に取り付けるときは、付属のアイボルトを取り付け、落下防止ワイヤー（別途調達）などで落下防止対策を行ってください。



故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。

これらの処置をしても直らないときや、この表以外の症状のときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

現象	原因・対策	参照ページ
電源が入らない	● 電源プラグがコンセントから抜けていませんか？ → 電源プラグをコンセントに差し込みます。	—
音が出ない	● 各音量調節つまみが「小」になっていませんか？ → 各音量調節つまみを「大」の方に回してください。	9
受信表示LED が点灯しない (受信しない)	● グループ、チャンネルの設定がワイヤレスマイクと合っていますか？ → グループ、チャンネルをワイヤレスマイクと合わせてください。	9、12
	● ワイヤレスマイクの電源スイッチは「ON」になっていませんか？ → ワイヤレスマイクの電源スイッチをONしてください。	—
	● ワイヤレスマイクの乾電池は消耗していませんか？ → 新しい電池と交換してください。	—
	● 周波数帯域が800 MHz以外の機器を使用していませんか？ → 周波数帯域が800 MHzのワイヤレスマイクを使用してください。	—

仕様

スピーカー部

形式	2ウェイ バスレフ型
使用ユニット	低音用：20 cm コーン型、高音用：2.5 cm ドーム型

アンプ部

定格出力	60 W (4 Ω)
THD+N	1 %以下 (定格出力時)
マイク1入力	フォンジャック、-55 dBV、10 kΩ、不平衡、モノラル
マイク2入力	フォンジャック、-55 dBV、600 Ω、電子バランス、モノラル
ライン1入力	フォンジャック、-12 dBV、10 kΩ、電子バランス、モノラル
ライン2入力	ピンジャック、-12 dBV、10 kΩ、不平衡、ステレオミックス
ライン出力	フォンジャック、0 dBV、100 Ω、不平衡、モノラル

ワイヤレス部 (2 台内蔵)

受信周波数	800 MHz帯 (806.125 MHz～ 809.750 MHz、125 kHz ステップ 30チャンネル)
受信方法	スーパーヘテロダイン方式
局部発信方式	水晶制御PLL シンセサイザー方式
トーンスケルチ周波数	32.768 kHz
受信表示LED	ワイヤレス1、ワイヤレス2

システム全体

消費電力 (注)	21 W
定格消費電力	100 W
電源	AC100 V (50 Hz / 60 Hz)
再生周波数帯域	100 Hz ~ 15 kHz
最大再生音圧	111 dB (1 m)
寸法	幅 260 mm 高さ 374 mm 奥行 226 mm
質量	約10.3 kg (電源コード含む)
電源コード	約5 m
仕上げ	ポリプロピレン発泡樹脂成形、塗装品

(注) 電気用品安全法の技術基準に基づく表示です。

保証とアフターサービス

よくお読みください

使いかた・お手入れ・修理などは

■まず、お買い求め先へご相談ください

▼お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名	
電 話	() -
お買い上げ日	年 月 日

修理を依頼されるときは

「故障かな!?!」(17 ページ)でご確認のあと、直らないときは、電源スイッチを「切」にしてから、電源コードを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●製品名	ワイヤレスパワードスピーカーシステム
●品 番	WS-X77
●故障の状況	できるだけ具体的に

●保証期間中は、保証書の規定に従って出張修理いたします。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

●保証期間終了後は、診断をして修理できる場合はご要望により修理させていただきます。

※修理料金は次の内容で構成されています。

技術料 診断・修理・調整・点検などの費用

部品代 部品および補助材料代

出張料 技術者を派遣する費用

※補修用性能部品の保有期間 **7年**

当社は、本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後7年保有しています。

アフターサービスについて、おわかりにならないとき

お買い上げの販売店または保証書表面に記載されています連絡先へお問い合わせください。

高所設置製品に関するお願い

安全にお使いいただくために、1年に1回をめやすに、販売店または施工業者による点検をおすすめします。

本機を高所に設置してお使いの場合、落下によるけがや事故を未然に防止するため、下記のような状態ではないか、日常的に確認してください。

特に10年を超えてお使いの場合は、定期的な点検回数を増やすとともに買い換えの検討をお願いします。
詳しくは、販売店または施工業者に相談してください。

このような状態ではありませんか？		直ちに使用を中止してください
<ul style="list-style-type: none">● 本機を使用せずに放置している。	▶	事故防止のため、必ず販売店または施工業者に 撤去 を依頼してください。
<ul style="list-style-type: none">● 取付ねじがゆるんだり、抜けたりしている。● 取付部がぐらぐらしたり、傾いたりしている。● 本機および取付部に破損や著しいさびがある。	▶	事故防止のため、必ず販売店または施工業者に 点検 を依頼してください。

長期間使用に関するお願い

安全にお使いいただくために、販売店または施工業者による定期的な点検をお願いします。

本機を長年お使いの場合、外観上は異常がなくても、使用環境によっては部品が劣化している可能性があり、故障したり、事故につながることもあります。

下記のような状態ではないか、日常的に確認してください。

特に10年を超えてお使いの場合は、定期的な点検回数を増やすとともに買い換えの検討をお願いします。
詳しくは、販売店または施工業者に相談してください。

このような状態ではありませんか？		直ちに使用を中止してください
<ul style="list-style-type: none">● 煙が出たり、こげくさいにおいや異常な音がする。● 製品に触るとビリビリと電気を感じる。● 電源を入れても、音が出てこない。● その他の異常・故障がある。	▶	故障や事故防止のため、 電源を切り 、必ず販売店または施工業者に 点検 や 撤去 を依頼してください。

取扱説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

■使いかた・お手入れ・修理などは、まず、お買い求め先へご相談ください。

■その他ご不明な点は下記へご相談ください。

パナソニック システムお客様ご相談センター

電話 フリーダイヤル  **0120-878-410** 受付：9時～17時30分（土・日・祝祭日は受付のみ）
※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

ホームページからのお問い合わせは <https://panasonic.biz/cns/cs/cntctus/>

ご使用の回線（IP電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

本書の「保証とアフターサービス」もご覧ください。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくためのために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

パナソニック株式会社 コネクティッドソリューションズ社

〒812-8531 福岡県福岡市博多区美野島四丁目1番62号